

第4学年A組 総合的な学習の時間学習指導案

令和元年 10月 18日(金) 5校時
宿毛市立咸陽小学校
児童数 21名(男子 10名 女子 11名)
指導者 藤原 由衣

1 単元名 『ぼくらの海を知りたい 伝えたい』

2 単元設定の理由

(1) 単元について

本校は高知県の西部、幡多地域に位置している。校区の北では、高知県の特産である文旦や小夏の栽培がおこなわれ、東には新興住宅地、西には昔からの小さな漁村、そして校舎のすぐ南には黒潮の恵みを受け、様々な魚種が生息する宿毛湾がある。特に、宿毛湾は県内でも有数の漁場であり、地域の水揚げを集約するために出来た「宿毛漁港」や、湾奥には重要港湾である「宿毛湾港」もある。このことから、宿毛湾の豊かな恵みは、宿毛市に住む人々の生活の大きな支えとなっている。しかし、地域で生活する人たちは、魚の養殖、定置網、市場で働く人もいるが、その多くは海とは関係のないサービス業に就いている割合が多い。また、児童は自分たちの身近に海があるにも関わらず、海に親しみ、海を利用しながら遊んでいる児童は少ない。そのため、宿毛湾の豊かな恵みによって自分たちの生活が豊かになっていることを実感する機会があまりなく、その魅力に気付いている児童は少ない。そこで、生活を支える港を調べる活動を通して、その特徴や役割を比較・整理し、宿毛湾の恵みを中心に人々が港を利用し生活の糧としてきたことを児童に気付かせていく。また、それらの気付きを地域の人に発信させることによって、地域の一員として故郷を誇れる児童を育成できると考えている。

さらには、校区の北には愛媛県と高知県の境にあたる「松尾峠」と言われる標高300mの峠がある。この峠は、古くから愛媛県と高知県を結ぶ交通の要所として人やものが行き交っていた。また、江戸時代には番所が設置され、人の出入りを監視していた。この峠を多くのお遍路さんや幕府の巡検史、旅人などが宿毛湾を見渡しながら通っていたと考えられる。現在も遍路道となっており、大変歴史的価値の高い場所となっている。そして、昔も今も峠からは宿毛湾が眼下に広がり、峠を越える旅人の憩いの場になっている。そこで、宿毛湾の魅力伝える相手を地域の人だけでなくお遍路さんにも広げていくことで、県外の人や外国の人にも故郷のよさを伝える機会としたい。

(2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元では、「B 思考力・判断力・表現力等」の「整理・分析する力」と「まとめ・表現する力」に重点を置き、学習を組み立てていく。「整理・分析する力」については、宿毛湾港と宿毛漁港の2つの港を調べたり足を運んだりして得た情報を整理し比較し、各港の特徴や役割を分析していくことで思考力及び判断力の向上を図りたい。また、「まとめ・表現する力」については、宿毛湾の魅力をより多くの人に伝えていくための手段や、より分かりやすく、効果的に伝えるための方法を考えさせていきたい。

(3) 児童について

児童はこれまで、3学年の社会科の学習で行った校区探検を通して、北側には高知県の特産である文旦や小夏が多く栽培されていること、南側には海が広がり「宿毛湾港」があることなど、地域に豊かな自然

があることは知っている。しかし、それらの自然によって自分たちの生活が支えられていることや、そこには地域の人々の努力や工夫、思いや願いがあることに気付くところまでには至っていない。そこで、生活の大きな支えの一つである宿毛湾を取り上げ、それらに関わる探究的な学習を通して、豊かな自然と自分たちの生活との密接なつながりやそれを実現する人々の思いに気付かせたい。そうすることでさらなる故郷を大切に思う意識を高めるとともに、キャリア形成にもつながっていくと考える。

(4) 指導について

4年生の海洋教育のテーマは「海を知る」である。5月の中旬、校区の好きなところについて出し合ったとき、多くの児童が海を取り上げていたところから本単元をスタートさせた。そして、一番身近である宿毛湾について知っていることを出し合う中で、港がたくさんあるということに焦点を当てながら話し合いを進めると、「いくつ港があるのかな」「どの港も同じなのかな違うのかな」「撮れる魚の種類は何だろう」などの疑問が出てきた。そこから、宿毛湾の港の特徴や役割、捕れる魚について知るという課題を設定した。課題を解決する方法として、港や魚について知っている人に聞く、実際に港に行くなどの意見が出たため、5月の下旬には市役所の方をゲストティーチャーとして招いた。「宿毛湾港」についてお話を聞いたところ、「宿毛湾港」が物流の拠点となっていることや客船寄港によって観光を促進していることを教えていただいた。さらには、波の影響を受けづらく深い宿毛湾だからこそ「宿毛湾港」ができたという宿毛湾の魅力についても話していただいた。それらを振り返る中で、「宿毛湾港では魚を捕っていないようだったから、捕れる魚について知りたい」「魚はどこに揚がっているのだろうか」という疑問が出たため、次は「宿毛湾漁港」を見学することを決定した。見学では、魚を捕ってから輸送されるまでの一連の流れを見せていただいた。そしてここでも、宿毛湾は漁場に適した場であり、宿毛市の魅力の一つであるためもっと多くの人に伝えてほしいという人々の思いにも触れることができた。

2つの港について調べた後は、それぞれの港についてまとめたものを比較し、相違点や共通点を話し合った。その中で相違点があったことから、港には役割があることに気付いていった。また、共通点として自分たちの生活を支えていることや、宿毛湾にしかない魅力を伝えてほしいという人々の思いがあることに気付き、それらの思いを発信したいという次の課題を設定した。

発信する相手として、地域の人だけでなく他県からも多くの人が足を運ぶ四国遍路に焦点を当てることにした。そこで、まずは「四国遍路」や「松尾峠」についての情報を児童に収集させ、知識を身に付けさせていく。2学期に入った9月下旬には、1学期の学びを振り返り宿毛湾のよさを発信するための方法を話し合った。そこで、松尾峠から宿毛湾が見渡せるらしいという話を出したところ、お遍路さんが通っていたのを見たという児童がいた。そこから、宿毛湾のよさをお遍路さんに伝えると、お遍路さんもさらに県外の人へアピールしてくれるかもしれないという意見が出てきたため、まずは松尾峠やお遍路について調べることにした。インターネットで収集した情報を個人で「松尾峠」「お遍路」の2つの項目で分類し、整理させた。また、整理する中で気付きや疑問などがあればそれもメモさせておいた。

本時は、それらを全体で共有し、出てきた疑問からさらに情報収集するための方法を話し合わせる時間である。たくさんの情報を整理し気付きや疑問を出していく中で、実際に人に聞くという方法でしか得られないお遍路さんの思いなどを全体の疑問として取り上げる。そして、それらを調べる方法についても話し合い、次時にお遍路さんをゲストティーチャーに招くことで遍路についての知識をさらに深めていきたい。そうすることで、宿毛湾のよさを発信する方法について話し合う際に、お遍路さんを対象とする効果的な発信方法をより具体的なイメージをもちながら思考できると考える。

3 単元目標

【知識及び技能】

○宿毛湾に関わる探究的な学習の過程において、宿毛湾に点在する港の役割、水産業の重要性を知るとともに、宿毛湾の豊かな恵みによって食生活が支えられていることに気付き、それらが人々の努力や工夫によるものであることに気付く。

【思考力、判断力、表現力等】

○宿毛湾の魅力について、調べ学習や体験学習を通して得た情報を比較したり分類したりして整理分析し、まとめ方を工夫して地域の人やお遍路さんなど多くの人に発信することができる。

【主体的に学びに取り組む態度】

○宿毛湾の魅力について調べたことをもとに主体的に話し合い、表現する活動を通して、故郷の海のよさに気付き、誇りや愛着をもつことができる。

4 単元の評価規準

探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力	知識及び技能	宿毛湾に点在する港の役割について理解する。 私たちの生活が宿毛湾の豊かな恵みによって支えられていることに気づく。	
	思考力、判断力、表現力等	課題設定	宿毛湾・咸陽地域についての課題を設定し追究している。
		情報収集	教師の支援や、地域探検を通して、見たこと聞いたこと、調べたことなど様々な情報を収集している。
		整理・分析	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見つけている。
		まとめ・表現	情報収集から得た知識をもとに、様々な工夫を用いて相手に分かりやすくまとめようとしている。
		ふり返り	学習したことをふり返り考えを整理するとともに、新たな課題を見つけたり学びをこれからの生活に活かそうとしたりしている。
	主体的に取り組む態度	主体性	課題解決に向けて、進んで探究活動に取り組もうとしている。
		協働性	課題解決に向けて、友だちと協働して探究活動に取り組んでいる。
		自己理解	自分の良さや自分のできることに気付き、課題解決に取り組んでいる。
		他者理解	自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。
		地域貢献	自分と地域の繋がりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。

5. 関連図

	3年生	4年生	5年生	6年生
大テーマ	<p>自分が好き 友だちが好き 故郷（ここ）が好き</p> <p>～この海を守り継ぐために～</p>			
小テーマ	<p>「ぼくらは海の探検隊」 ～ぼくらの遊び場 宿毛湾～</p> <p>【海に親しむ】</p>	<p>「ぼくらの海を知 りたい伝えたい」</p> <p>【海を知る】</p>	<p>「広がれ 宿毛の魚プロジェクト」 ～人と海の 繋がりを見つめて～</p> <p>【海を利用する】</p>	<p>「砂浜清掃 プロジェクト」 ～脇本の浜から宿毛湾 の環境を考える～</p> <p>【海を守る】</p>
探究課題	宿毛湾に生息する生きものや人と自然の関わり	宿毛湾に点在する港の役割、水産業の重要性及び宿毛湾の魅力	漁業に携わる地域の人達の海への思いや仕事と海の繋がり	宿毛湾の自然環境とそれに関わる人々の生活

6. 指導計画（全 70 時間）

次期	探究の過程	単元の内容	GT	他教科との関連
4月	課題設定	<p>○宿毛湾について知っていることを出し合う。</p> <p>○宿毛湾について調べたいことを話し合う。</p> <p>「ぼくらの海を知りたい 伝えたい」</p> <p>○宿毛湾で捕れる魚やそれぞれの港の役割を調べる方法を話し合う。</p> <p>○1学期の単元の進め方を決める。</p>		季節と生きもの 【理】
5月 6月		情報収集		

7月	整理・分析	○調べた2つの港を比較し、それぞれの役割や共通している人々の思いを考える。		
	まとめ・表現	○これまでの体験を振り返り、収集した情報をもとに、港の役割や捕れる魚について分かりやすく整理する。 ○整理したことをもとに、誰にどのような方法で伝えるか話し合う。		みんなで新聞を作ろう【国】 大きい数の仕組み【算】
9月	課題設定	○1学期の学習を振り返り、2学期の単元の進め方を決める。 ○松尾岬について話す。		
10月	情報収集	○松尾岬やお遍路道、お遍路について調べる。 ○集めた情報を整理し、さらに情報収集する方法について話し合う。 【本時】 ○校長先生に話を聞く。 ○ゲストティーチャーに話を聞く。(多面的・多角的に考える。) ○聞いたことをまとめる。 ○いつ、どこで、だれに、どんな方法で伝えるのか話し合う。	延光寺住職 増田さん お遍路道の 先達さん	案内係になろう【国】 お願いやお礼の手紙【国】
11月	整理・分析	○遍路札を作る。		幸せを運ぶカード【図】
12月		○松尾岬に登って札をかける。 ○しおりを作る。 ○松尾岬のお堂にしおりを置く。		
1月	まとめ・表現	○これまでの取り組みをもとに宿毛湾の魅力をまとめる。	河原さん 山口さん	私たちの県町づくり【社】
2月		○地域の人に宿毛湾のよさを知ってもらおう。 (参観日にポスターセッション等で)	増田さん	昔からつづく町づくり【社】

7. 本時の展開

(1) 本時の目標

○松尾峠について集めた情報を整理し、課題解決に向けこれから必要な情報を収集する方法を話し合
うことができる。

(2) 準備物

ワークシート、電子黒板（写真）

(3) 学習の展開

	学 習 活 動	子どもの意識の流れ	指導上の留意点 (○)・評価 (■)
導 入 展 開	1. 前時までの活動を想起する。	宿毛湾全体が見渡せる松尾峠について調べたい。	○宿毛湾のよさをお遍路さんに伝え ると、お遍路さんもさらに県外 の人へアピールしてくれるかも もしれないという児童の思いを再 度確認しておく。 ○個人で「松尾峠」「お遍路」の2つ の項目に分類しておいたものを 出し合うことで、情報を共有し全 体で整理していく。 ○電子黒板で写真を提示していく ことで、調べたものの具体的なイ メージを一致させるようにする。 ○整理していく中で、足りない情報 やわからないことなど新たな疑問 を押さえていくことで、さらに 情報収集したいという意欲を高 めるようにする。 ■松尾峠について、集めた情報を分 類しながら理解している。(発言・ ワークシート)
	2. 本時のめあてを確認する。	松尾峠について調べたことを整理し よう。	
	3. 調べたことを出し合う。	<p>【松尾峠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県と高知県を結ぶ街道。 ・おへん路さんや多くの旅人が通っていた。 ・番所があった。 ・茶屋でおかしが売られていた。 ・1日に300人ぐらい通っていた。 ・標高300mの峠。 ・展望台から宿毛湾が見おろせる。 ・道がけわしい。 ・お堂がある。 <p>【おへん路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白い服を着ている。 ・かさをかぶったりつえを持ったりして歩く。 ・弘法大師 	
	4. さらに調べたいことを決定する。	おへん路さんはどんなことを考えて登っているのだろう。 おへん路についてもっと調べたい。	

終末	5. 調べる方法について話し合う。	おへん路にくわしい人に話を聞いてみたい。	
----	-------------------	----------------------	--

(5) 板書計画

松尾峠について調べたことを整理しよう。

松尾峠

番所って？

- ・愛媛県と高知県を結ぶ街道。
- ・おへん路さんや多くの旅人が通っていた。
- ・番所があった。
- ・茶屋でおかしが売られていた。
- ・1日に300人ぐらい通っていた。
- ・標高300mの峠。
- ・展望台から宿毛湾が見おろせる。
- ・道がけわしい。
- ・お堂がある。

お堂の中にいるのは？

おへん路

- ・白い服を着ている。
- ・かさをかぶったりつえを保持ったりして歩く。
- ・弘法大師
- ・同行二人
- ・延光寺

延光寺とはどんな関係があるの？

弘法大師ってどんな人？

どんなことを考えて登っているのだろう。

おへん路にくわしい人に話を聞いてみたい。